

市民の皆様と一体のコロナ対策

大村市医師会会長 田崎 賢一



市民の皆様には日頃より医師会にご理解・御協力いただき感謝申し上げます。というのが、社交辞令ではなく、これまでの大村市でのコロナ対応を振り返り、本当にそうだったな、というのが今回の話です。

大村市の医療連携・役割分担

大村市内の医療機関では、日頃より相互に連携してそれぞれにふさわしい役割を分担し、市内全体で地域医療を守っていくことを目指しています。一次医療機関（主としてクリニック、患者さんが最初にかかる、あるいは普段からのかかりつけとしての役目）がしっかり機能することで、二次・三次（紹介を受ける、専門・高度の）機関がその役割に専念できます。休日・時間外の一次医療については、医師会が休日当番医制や夜間初期診療センターを運営しています。

爆発的感染者増加に際して

国内初の新型コロナウイルス感染者が確認されたのは令和2年ですが、昨年夏から冬にかけての第6～8波では弱毒化とともにウイルスの感染力が格段に強くなり、感染する人の数が著しく増えました。

その結果、他の地域（特に都市部）で、身近なところに発熱外来が少ないために検査や治療を受けられない発熱患者が大病院の救急外来や夜間窓口に押し寄せて混乱をきたすという事態が発生したようです。そうすると高度専門病院の本来の機能は果たせなくなり、救急車の受け入れ先が見つからないなどの、「医療崩壊」が生じました。

また、高齢者施設や在宅療養の場で、感染者は軽症であってもすべてコロナ受入れ病院へ入院となることが多く、それもまた病院の医療を圧迫する原因となっていました。

大村市の状況

一方、大村市内においては、軽症のコロナ患者さんが高度専門の病院に負担をかけることが無いように、と多くの会員医療機関が発熱外来を開設して対応、高齢者施設や在宅療養の場に訪問もして検査や治療を行ってきました。そして市民の皆様はそのような体制を理解され、待ち時間や万全ではない環境で不自由をおかけしたにもかかわらず、病院に押しかけたり救急車を呼んだりすることなく、きちんと連絡の上で発熱外来を利用させていただきました。その結果感染爆発のときでも救急医療を含めて高度専門病院が混乱することはありませんでした。病院も含めて医療側もがんばりましたが、市民の皆様のご理解・御協力がなければこうはいかなかったでしょう。施設や在宅での治療についてはご家族の理解がなければなしえませんが、これについても市民の皆様にご理解いただき施設・在宅療養が可能とあったため、病院へは病院での治療が必要な患者さんだけを入院させることができました。

他地域での混乱、医療崩壊との情報を耳にするにつけ、大村ではまさに市民の皆様と一体となって地域医療の崩壊を防ぐことができたものと感謝する次第です。今後ともよろしくお願いいたします。



【医心伝心】

あじさいの花がいたるところで咲き誇り、じめじめした梅雨をしばし忘れる美しさです。そして梅雨が明けると夏本番がやってきます。熱中症を予防するためには、こまめな水分補給やエアコンを上手く活用して快適に過ごすことが大切です。熱中症対策で夏を乗り切りましょう。

看護師への復職を考えている方へ 潜在看護師の復職支援研修を行っています。大村市医師会にご相談下さい。